

2026.7
Vol. 52

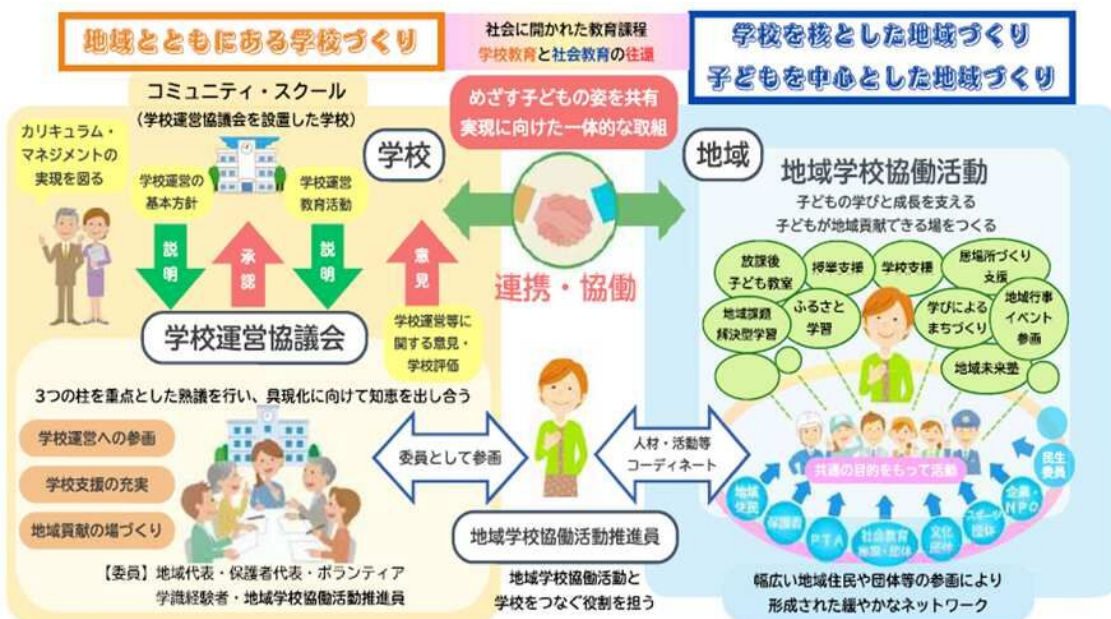
コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の 一体的推進に向けて

地域と学校の連携・協働を効果的、継続的に行うためには、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進が必要になります。

そのためには、学校運営協議会において、「児童生徒の課題を共有し、熟議（対話）を通じて、具現化・行動化へつなげる」ことを共通理解するとともに、取組ありきではなく、「**何のためにやるのか**」、「**どんな力を子どもにつけるのか**」という目的を明確にして進めていくことが大切です。地域と学校が、子どもたちの学びの充実のために、協議し、協働し、活動後の評価をして、次の取組につなげていくという、PDCAサイクルを回していくことが重要になります。

また、一体的推進の中心になるのが、「地域学校協働活動推進委員」です。名張市では、今年度は、昨年度から6人増え、11人となりました。今後も活躍いただけるように、教育委員会としても取組を進めていきます。

「地域学校協働活動推進員」＝地域と学校をつなぐコーディネーター



1学期に市内小中学校で、第1回学校運営協議会が行われました。有意義な協議会の時間、充実した取組になるように、熟議や協議の内容、児童生徒や教職員の参加等、目的や意図に応じて持ち方が工夫されていました。その中の一部を紹介します。

市内CSの取組より

美旗小学校では、高学年の児童委員会の児童が参加し、自分たちの学校や地域がさらにすてきな学校や地域になるためにできることについて、グループに分かれて意見交流しました。

活発な交流になるように、児童たちは事前に校内でプロジェクト会議を実施してまとめた意見をもとに、具体的な取組や行動化できることを話し合っていました。



熟議を通して、具体の取組へ

梅が丘小学校では、子どもの実態を踏まえ、「安心できる居場所づくり・誰かの役に立っていると感じる活動」についてグループで熟議が行われました。めざす子ども像を共有し、有効な取組等アイデアを出し合い、さらに、具体的な取組として何ができるか、すぐに実行できそうなことを取り上げ、行動化に向けた話し合いが進んでいました。



北中学校区では、校区の４つの小中学校の各運営協議会の会長と学校長が集い、学校の現状や昨年度までの各校での学校運営協議会の取組の交流や今後の方向性などについて情報共有する懇談会がもたれました。

さらに、防災活動に関わる子どもの参画について議論したり、今年度の課題として取り組んでいくことを確認したり、有意義な熟議が行われました。

